

KAGAWA アンバサダーからのお便り～樺島泰貴さん～

「夢を追いかける香川の友人へ」

台湾に住んで、今年で約15年になろうとしています。留学が1年、駐在員として1年、そして、2006年に讃岐うどん店を開いてから13年目になります。

20代、留学していたイタリアから帰国し、東京のイタリア食品専門商社に勤めていた頃、徐々に会社の状況が悪くなって行き、また、まだ人生の目標も見つからないまま、悶々としていた時に、台湾で働いていた長崎出身の大学の友人から、「21世紀は中国語の時代ばい！」と、ハツラツとした声で、現地からの国際電話で話を聞きかされた瞬間、暗闇に一筋の光が差し、言いようのない可能性を感じ、一念発起して会社を辞め、01年に台湾に1年間語学留学したのが、最初の台湾との運命的な出会いでした。

当時のアジアへの印象は、まだ、だいぶ遅れているというイメージしかなかったものの、行ってみると欧州とは違う中華圏独特の奥深さやユニークな文化に触れ、しかも、古き良き日本の精神や建物が台湾に存在していることを知って驚き、外国=欧米というそれまでの感覚が大きく崩れたことをよく思い出します。

「21世紀は中国語の時代ばい」という友人の一言が心に響き、自分を、讃岐うどんを、日本を国際化したい！との想いで突き進むことに。

言葉もまだおぼつかなくても、自分と讃岐うどんの魅力をただ信じて、「3年間はどんなことがあっても休まず、絶対に帰国しない！」と心に決め、手探りでゼロから立ち上げ。

台湾最初の讃岐うどん専門店だったためか、当初は「麺（めん）が太い醤油（しょうゆ）ラーメンだなあ」「塩っぱ過ぎるよ」「寿司（すし）や刺身はないのか？」「なぜ、天ぷらがスープに浮いてる？」「ネギしか乗ってないのか！美味（おい）しくない」「豚骨ラーメンが食べたい」「さぬきではなく、たぬきの間違いではないですか？」「あそこに行列店がある。もっと台湾人の好みを勉強した方がいいよ」「日本は親子のような関係かもしれないが、台湾は兄弟のように社員やお客さんと接しなければならないよ」。いろんなギャップに戸惑い、壁にぶつかりながらも、多くの現地の方々をサポートしていただき、台湾に暮らせば暮らすほど、人との繋（つな）がりの大切さを痛感させられる日々となりました。

07年1月には、台湾香川県人会を立ち上げることができ、台湾在住の香川県人の方にも支えられ、台湾と香川県への感謝が、深まった15年に。

日本の伝統や良さを残しつつ、現地化させることは現地化させる、味や経営方法など、守るものと変えるもののそのバランスを取ることが、最も難しく、海外暮らしが長くなるにつれて、日本が恋しくなり、その想いを、表現する力に変えて、日本文化や讃岐うどんを広めていきたいと思っています。

本気で求めれば、叶う夢いっぱい。

明日は世界を！

Tomorrow the world



樺島泰貴（かばしまやすたか）さん

佐賀県出身。

香川県内のうどん店で修業後、2006年に台湾初となる讃岐うどん専門店「土三寒六（どさんかんろく）」を開店した、台湾における讃岐うどん普及の第一人者。台湾香川県人会会長。

◇ **KAGAWA アンバサダーについて**

香川の魅力を世界へ発信するとともに、本県の諸課題に対する情報提供、活動、提言等を行っていただく大使です。主に世界を舞台に活躍している香川県出身者や県にゆかりのある方で、各界から候補者の推薦を受け、識者による選考後、知事が委嘱しています。

◇ **KAGAWA アンバサダーからのお便りについて**

県民の方々にKAGAWAアンバサダー事業及び県の国際化の推進について、より理解を深めていただくことを目的に、世界を舞台に活躍されているKAGAWAアンバサダーの方々から在住国や御自身の活動等について御紹介いただくものです。